

無焼成固化技術を活用したレンガ製造普及・実証事業 亀井製陶株式会社（岐阜県多治見市）

バングラデシュ国の開発ニーズ

- レンガ産業は国内最大の温室効果ガス(GHG)排出源、かつ都市部の大気汚染の最大の原因。
- レンガ生産のために農地が急激に減少。
- 首都近郊に住むBOP層の増加。

普及・実証事業の内容

- 「無焼成固化技術」を利用したレンガ工場を公共事業局の所有地に建設し、製造した無焼成レンガを公共事業局が公共建築物に試験使用。
- 現地不動産開発業者などへのプロモーションを実施。
- フランチャイズ方式での展開等のビジネスモデルを検討し戦略を構築。

提案企業の技術・製品



日本伝統の焼き物技術と 新開発の特殊固化技術を併せた [無焼成固化技術]

- 主原料として各種未利用資源やリサイクル資源の利用が可能。洪水被害の多いバングラデシュにおいては、浚渫土砂を利用。
- 化石燃料を使用しないため、資源の有効活用を含め環境により配慮した製法。

バングラデシュ国側に見込まれる成果

- 焼成により引き起こされる温室効果ガスの削減と大気汚染の改善。
- 浚渫土砂の利用による農地保全、廃棄物問題への貢献。
- BOP層に安定した質の高い雇用を提供。

日本企業側の成果

現状

- バングラデシュ進出のために現地法人を設立。

今後

- 現地での市場ニーズに合わせ、機材の仕様改良やコストダウン。
- フランチャイズモデルの確立。
- 現地不動産開発業者との提携や現地合併会社設立。